

氏 名	川 島 東 洋 一 かわ しま と よ い ち
学位の種類	農 学 博 士
学位記番号	論 農 博 第 759 号
学位授与の日付	昭 和 53 年 5 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学位論文題目	果実の生産と市場対応に関する研究

論文調査委員 (主 査) 教 授 菊 地 泰 次 教 授 上 村 恵 一 教 授 頼 平

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、果樹作産地における果実の生産と流通の実態を歴史的、実証的に分析し、その分析をふまえて産地（生産者および出荷団体）の行う生産過程をも含めた出荷販売活動——市場対応——の方向を見定めようとしたものである。

まず総論の第1部では、明治以降のわが国果樹農業の発展過程を歴史的に考察し、その段階を三つの時期に区分してそれぞれの特徴を明らかにしている。

次いで総論の第2部では、果実全般を対象として、価格の推移に対して産地がどのような市場対応をはかってきたか、個別経営の枠を越えた集団産地としての市場対応がどのように変わってきたか、さらに産地における共販活動の意義と選果場の機能・役割はどのようなものであり、品質向上と省力栽培の技術がどのように進歩してきたか等について実証的に分析し、それらの結果をふまえて今後の合理化方向を明らかにしている。

各論をなす第3部ではリンゴを対象とし、第4部ではミカンを対象として、それぞれの果実に特有の生産と流通に関する問題点をさらに掘下げて分析し、それぞれの問題点に対して具体的な改善策を提示している。

第3部では、無袋リンゴの生産と市場対応の実態を分析して問題点を明らかにしながら、それぞれの解決策を提唱するとともに、共同防除についても、詳細な実態分析の結果から規模拡大の限界を指摘し、適正規模の条件や費用負担のあり方等を論じている。

第4部では、主としてミカンの加工と貯蔵問題を取りあげ、主産地における生産と流通の実態を明らかにするとともに、加工については長期需給計画の策定と原料規格統一の重要性を強調し、貯蔵については、時期別、産地別、施設別の比較分析を通してその経済性に対する規定要因と各施設の採算条件を明らかにしている。

論文審査の結果の要旨

従来の農産物流通に関する研究の多くが、農産物収穫後の問題を取扱ってきたのに対し、本論文は積極的に果実の生産・管理過程における経営的・技術的諸問題をとりあげ、それらの側面から生産者による市場対応の実態を明らかにしたうえで、その発展方向に多くの示唆を与えている。

総論をなす第1部と第2部においては、果実全般にわたる生産と流通に関する展開過程を歴史的に考察してその特色を明らかにし、それを通して今後の発展方向を展望した点も高く評価されるが、本論文がとくに力点をおいたのは第3部と第4部の各論である。ここではリンゴとミカンを対象にして、生産者による市場対応を栽培、加工、貯蔵、販売の面から実証的に分析し、そこでの問題点を明らかにしたうえで、それぞれの解決策を具体的に提唱している。いまその主なものをあげれば次のとおりである。

第一に、リンゴの無袋栽培について、とくに省力化と品質向上の面から生産、流通、消費の各段階における意義と役割を明らかにし、その有利性を実証しながら、これを推進するための条件づくりを具体的に提示している。

第二に、リンゴの共同防除に関しては、とくに品質とコストの面から定置配管式の長短を地域別、規模別に分析し、近年における施設の大型化傾向に対して、技術的・経済的特質からくる規模拡大の限界を指摘し、適正規模の条件や費用負担のあり方について具体的な提言を行っている。

第三に、加工原料ミカンについて、主産県における生産と流通の実態を明らかにするとともに、ミカンの需給計画における加工原料の意義と役割を論じ、とくに価格変動への対応策として、生産者・パッカー間の長期需給計画の策定と、歩どまり、品質成分を含めた原料規格統一の重要性を強調している。

第四に、ミカンの貯蔵出荷の経済性について、時期別、産地別、施設別に詳細な実態分析を行い、その経済性が貯蔵コストと年明け価格の動向によって規定されることを実証し、さらに産地別では西南暖地に対する東日本産地の有利性を、施設別では常温貯蔵施設の有利性と大型低温貯蔵施設の採算条件を明らかにしている。

以上のように本論文は、果実生産者の市場対応に関する実態と方向を究明して多くの新知見を加えたもので、果実の生産と流通に関する理論と実務面に寄与するところが大きい。

よって、本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。